

# Alert 22号

[通巻 404 号]  
2018年  
4月 10日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

反天日誌 \* 15  
野次馬日誌 \* 10  
集会情報 \* 16  
集会の真相 \* 13  
学習会報告 \* 15

●政教分離・民主主義・主権在民・平和主義!!  
今こそ私たちの反天論議を!! \* 2  
反天ジャーナル ● — なかもりけいこ、捨てられし猫、ななこ \* 3  
状況批評 ● 明治維新で人々は幸せになつたのか — 千本秀樹 \* 4  
書評 ● 合本『反天皇制運動』 — 池内文平 \* 7  
太田昌国のみたび夢は夜ひらく (95) \* 9  
マスコミじかけの天皇制 (20) \* 19  
●現首相の価値観が出来させた内政・外交の行説り — 太田昌国 \* 8  
●(3・11)国家儀礼と11回目の天皇沖縄訪問 — (壤憲天皇明仁) その19  
— 天野恵一 \* 8

## 今日の Alert

今こそ私たちの反天論議を!! \* 2

中世史などによると、職能や技芸を生業としたりする者たちの多くが「ナントカ天皇の勅許」などの偽文書を持っていたり、カミへの信仰をルーツとしていたりするという。そのことを知ったとき、かなりの違和感を感じたものだ。自分の腕で世渡りするのに、どうして天皇など必要なものか、つくづくこの列島の人間たちはクソだなどおもった。

とはいっても自分が不安定労働に従事するようになると、たとえば仕事の受注にあたっては、学歴や資格、企業での職歴など、かなりのフカシも交えて「能力」や「経歴」を飾り立てることもしてしまうわけで、その種のクソとまったく断絶できているわけでもない。

ただ、その類推から、非農業民などの職の「由縁」や「系図」のたぐいが天皇や貴族、権力者に連なつたものとされたことの裏側についても、その発祥は、ずいぶんセコいものと実感的に読める。勲章や表彰のたぐいや「おことば」を受けたり、式典を催したり儀礼に加わったりするということが、意味あるものと意識されるのも、権力者や有名人との写真を喜ぶ卑小なふるまいも、その延長にある。

検察や警察の情報隠蔽や改竄の酷さを知っていれば、この間に露呈した官僚の嘘や隠蔽の事実にも単純に驚きはしないが、これらが権力者グループとの露骨な密通としてあり、なおかつそれが犯罪として意識されていないことには、いまさらながら驚かされた。企業で蔓延しているデータ偽造も同様だ。

つまるところ、それは、階層が分断されるほどに、権力者グループにへつらうための仕組みが再生産され、階層の上下を問わず相互に虚構が拡大されているということだ。それが「洗練」された服属儀礼として認知されることも近いと思われる。

(蝙蝠)



250円

●定期購読をお願いします (送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス  
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

今月の

Alert

## 政教分離・民主主義・主権在民・平和主義!! 今こそ私たちの反天論議を!!



三月二七日から二九日、天皇は皇后とともに沖縄訪問をした。今回で一回目、即位して六回目の訪問だ。天皇の強い希望であつたというこの退位前の天皇訪沖に関する報道は、一部を除き、一貫して沖縄に思いを寄せる天皇像をつくり出した。「天皇の名のもとで行われた沖縄戦」、沖縄を売り渡した「天皇メッセージ」に触れた記事もあるにはあつたが、それも明仁の沖縄に寄せる思いの強さを補強する演出となり果てた。指摘すべきことは多々あるなかで、すでに少くない人が指摘しているこの訪沖の日付の「意味」について触れておきたい。

三月二七日は、一八七九年のちょうどこの日、いわゆる「琉球処分」と呼ばれる琉球王国が軍隊を引き連れた日本国家に強制的に併合された日である。また、与那国島を訪問した二八日は、与那国への自衛隊配備二周年目にあたる。この自衛隊配備は与那国の人々を分断し、平和裏に生きる人々の権利を奪い取った。これらの日々を選ぶとは、何とも露骨に政治的な話でしかない。

瀬戸内海は「明仁天皇論」(『平成の天皇制』)は何か』岩波書店)で、明仁が皇太子時代から沖縄や北海道を始め被災地や激戦地等への訪問を続けたその行為について、「国民統合の周縁にいる人たちを再統合する役割を担う意志を感じる」と述べている。そして、「沖縄の人たちを『日本国民』として国家の中に統合する役割を、結果的に果たしてきただ」と。今回の天皇の沖縄訪問で思い出したのはこの瀬戸内海の指摘であった。

八月には北海道の利尻島訪問も検討中であるというが、同様のことがいえる。近代天皇は歴代、さまざまな政治目的で各地を回っているのだ。明仁は「平成天皇」としての最後の務めとして、八月の利尻島を訪問する。その明仁がどのような美辞麗句で形容されようと、そこには君主としての傲慢な役割を果たす天皇像しか見えない。天皇の沖縄訪問については、東京では練馬集会と4・28・29実行委の緊急集会が開催された(集会の真相参照)。

そして三月三〇日、政府は式典準備委員会の最終回を開き、皇位継承の儀式に関する方針を発表した。国事行為として、二〇一九年四月三〇日「退位礼正殿の儀」、五月一日「剣璽等繼承の儀」、「即位後朝見の儀」、一〇月二二日「即位礼正殿の儀」、「祝賀御列の儀」、一〇月二三日以降「饗宴の儀」、二〇二〇年「立皇嗣の礼」。「大嘗祭」は一月一四日(一五日とし)、「国事行為としないが公費を支出する」という前回の政府見解を踏襲するとした。

「昭和・平成」の代替わりでは、これら

一連の儀式が国民主権や政教分離原則に反するとして各地で訴訟が起こされた。現時点では、マスメディアレベルでもまだこう

いった記憶を喚起させる記事をつくつてい

る。退位・即位・大嘗祭全体にいつたいど

り、安倍政権が押し切れない事態、政府内

部で憲法との整合性を問題にする声が少な

くない」ということでもある。非公開で「議

論しない」ことを前提とする非民主的な準

備委員会の問題も大きい。ここは私たちに

とっても広く議論を起こしていくタイミングでもある。

憲法との整合性ということでは、そもそも皇室にまつわる神々を祀り、宮中祭祀を日常的に行う天皇が、一神社の神主ではなく、國家の制度に組みこまれた存在として逸脱している。その国家的存在ではな

く、誰に選ばれるでもなく、世襲で代替わ

りする。それ自体も民主主義、主権在民の原則に反する。それに伴う儀式は宗教的要

素にまみれている。だから当然政教分離原

則違反。もちろん、特權的な身分にある天

皇は平等主義にも反する。国家が関わるな

ど論外。とてもわかりやすく単純な話で

はないか。そして、このような天皇代替わり、

天皇制維持の儀式に莫大な税金を投入され

ないが公費を支出する」という前回の政

府見解を踏襲するとした。

「代替わり」をともに闘うために集まつた首都圏の実行委は、いま「元号いらない運動」を展開している。たくさんの声を集めてい

きたい。そして今月は、4・28・29、沖縄デー

と反「昭和の日」行動だ(チラシ参照)。

協力・参加を!

## 「忖度」でしまがされるな

## 校長先生が友達に思える時代の不幸

ああ、けつたくぞ悪い！

モリカケ問題で「總理の」意向を汲んだ「忖度」が注目を集め、二〇一七年度の流行語大賞にまでなった。今年に入り、財務省による森友学園への国有地売却に関する公文書改ざんが発覚し、防衛省や厚労省における文書隠蔽も次々明らかになっている。改ざん・隠蔽は公文書管理法に反するだけではなく、情報公開法で保障されている知る権利をも侵害する。政権と行政による「忖度」で政治が行なわれているとしたら、国会の存在意義はなく危機的状況だ。政治の質を問うことなく忖度だけを問題にしていたのでは、大きな壁となり真相解明への道が阻まれ、法的責任も問えない。

この忖度、もう一つ気になることがある。それは生前退位が天皇の「お気持ち」を忖度して決定されたこと。平和天皇のお言葉として、リベラル派からマスコミまで、そって支持、天皇退位特例法も国会において全会一致で成立している。憲法違反かどうかの議論もなくすんなり決まってしまった。これでまた戦争責任が曖昧にされ、権威ある「象徴」として位置づけ、市民にとってありがたい存在として崇拜させられていくのかと思うと憂鬱になる。忖度と政治利用で行なわれる代替わり、天皇制を廃止させられない戦後民主主義、どこか間違っている。

(なかもりけいじ)

運転中の車のラジオで、川崎の堀之内に『探み友学園』という名のお店がオープンしたと聞き、あわてて出かけて行つたが、それは既に終了したイベントの看板で、やむなくチネチッタで映画を見たのは確か昨年の5月のことだった。この間の「サガツさんの国会招致」を伝える報道番組に違和感を感じながら思い出していたのは、この看板にあった「無事認可が下りました」というキヤツチのことだ。

国有地払い下げの値引きなんて、あの小学校開設の条件を満たす方便ではなかったか。名前が挙がっている政治家はもちろん、地方行政や中央官庁の中にも「認可」が無事に下りるのを心待ちにして、後押しもしてきたそれなりの数の人間がいたはずだ。教育勅語を暗唱できる生徒たちが卒業していくのを見たのは、けしてあのオッサンやオバハンだけとは思えない。

昭和でいえば30年代から60年代まで、卒業記念のレコード盤にさまれた校長先生86人の挨拶を、書籍として復刻した『校長先生のはなし』(リクロ舍)が出版された。小学校から大学まで卒業生の年齢は違つても、校長の挨拶は時代を鏡として映してくるが、他人の子供をダンシに使って(公のゼニを引き出そ)とするとそもそもしあは、どうにも見当たらない。

(捨てられし猫)

しかしさあ、どいつもこいつも、あつちもこつちも酷すぎない？ なんかホントに呆れるわ。首相も大臣も、役所も役人も。人をバカにするんじゃないわよっ！ 今どき、女性が土俵にあがつてはいけないとか意味不明。どこの空にもオスプレイのような異様なものは飛んでちゃダメだよ。人間にコントロールできない核や放射能など扱つてはイカン！ ああ、もう完全にテレビの前で怒つておばさんだわ……。

若い人とりタイア組の働き口がうまくマッチしない状況のなか、そこにロボットが入りこんで来ている。たしかにロボット掃除機は便利かなと思ったりしゃうけど、「オッケー、グーグル」などとは口が裂けてもいいたくないし。おどとしの映画だけど、ケン・ローチの『Daniel Blake』をやつと観ることができた。イギリスにおける民間に委託された福祉システムの不条理を描いた作品だ。身につまされる話だいふことは聞いていたけど、かなり現実的だった。主人公は私と同じ年！ 今はかろうじて使えている(と思ってる)パソコン作業だって、いつまでできるだらうか？

コンピュータも経済もそんなにヴァージョンアップしなくていいのだ。新しい武器など必要ではない。どの世代でもどんな人でも自分が自分らしく生活できる選択肢を残しておいて欲しい！

(私、ななこ)

反天



シャーナル

# 状況 批評

思想・状況・批評

千本秀樹（近代史研究）

## 明治維新で人々は幸せになつたのか

今年、二〇一八年は明治維新一五〇年、政府はなにやらこそそやろうとしているが、盛り上がりることはなはだしい。アベノミクスはうまくいかず、森友学園問題をはじめとして政治家と官僚に対する不信感が絶頂に達しているなかで、国民も明治維新一五〇年を祝おうという気にもならないのではないか。わたしにはそれよりも、人々のあいだに歴史への関心が薄まっているような雰囲気が気になる。本稿では、明治維新と天皇制の一五〇年について抜本的に見直すために、作業の取りかかりとしたい。

### 1、明治維新で人々は幸せになつたのか

明治維新はアジアで唯一成功した近代化への革命であつて、そのためには植民地にならずにすみ、先進国として発展した、明治維新はすばらしかつたという認識は、国民のあいだでは、いや、アジアの民衆のあいだでも圧倒的多数派である。アジア諸国から日本へ来る歴史系の留学生にも、「日本の近代化、経済的発展から学びたい」という者が多い。「あなたの国を侵略することによって経済的に発展したのですよ」といつても、なかなか問題意識は変えてもらえない。わたしと多くの関心を共有する先輩研究者でも、明治維新をプラスに評価する意見しか聞かない。封建制国家から中央集権国家へ変わったことは必然ではあるが、わたしはあえて「発展」とか「前進」とかは呼ばない。それは生産力発展史観への疑問からであるが、そこを譲つて中央集権国家の成立を前進だとしても、それ以外に明治維新で良いことはあつたのだろうか。

### 2、最大の不幸としての兵役

経済的発展によつて「先進国」になつたということは、帝国主義化して植民地を収奪し、植民地分割戦争を行なつたことと同義である。先進国になつたことを賛美し、侵略戦争を悪いこととして反省し批判するという矛

盾を、人々は自分のなかでどのように処理しているのだろうか。もちろん侵略戦争と認めたくない人も少なくないのだろうが、おもしろいエピソードをひとつ。山口組三代目組長田岡一雄が人権派と呼ばれた遠藤弁護士に左翼と右翼の違いを質問したときに、前の戦争を侵略戦争だというのが左翼、それを認めないのが右翼だと答えると、田岡組長は「じゃあ俺は左翼だ、あれは侵略戦争に決まつていてる」といったという。これが一般的な認識ではないだろうか。

明治維新が成功したかどうかは、それによつて人々が幸せになつたのかどうかが唯一の基準であるということは、承認してもらえるだろうか。「国家としての発展が国民の幸福である」という論者とは、別の議論が必要となる。幸せになつたと考える最大の根拠は、やはり生産力の発展であろう。大量の消費が可能になり、江戸時代にくらべると餓死者は減つたといふものである。大量消費は資本制の発展によるものであるが、欲望を肥大化させることができ資本制発展のカギであり、大量消費の是非については、ここでは論じない。ただ、江戸時代にくらべて餓死者が減つたというのはおそらく事実であろう。もうひとつ、職業選択の自由をあげる人もいるが、これは誰でも働くことができるができるという資本家による「雇用の自由」がより本質である。現在であつても、職業選択の自由はまったく形式化しているといわざるをえない。

くなつた正確な人数はわからない。これは江戸時代の餓死者より多いだろう。日本兵が殺した人数は数千万人。兵士の民衆としての戦争責任は指摘されることは多いが、殺人者とされたことの苦しみが論じられることは比較的少ない。戦場で殺し、殺されることの恐怖が精神のバランスを失わせ、復員しても元の生活に戻れない人々の存在は、ベトナム戦争、イラク戦争で注目されるようになり、アフガン・イラク戦争の復員兵のうち、P.T.S.Dで苦しむ者は五〇万人とされる。

日本でも報道は少ないが、一五年戦争で精神に傷を負つて戦傷病者特別援護法（一九六四）で治療中の人数は、一九七八年段階で一、一〇七名（共同通信社調べ）、現在でも終戦を認識できず入院を続けている人がいる。これらの人々を「未復員兵」（精神的に復員できていない）と呼ぶが、TBSの吉永春子がドキュメンタリー番組や著書『さすらいの未復員』で世に知らしめた功績は大きい。また自衛隊のイラク派兵で自殺した隊員の数は五四名とされるが、一〇〇名に上るという説もある。

また、徴兵制は国民に対して平等であったわけではない。最初の徴兵令では代人料（四〇〇円→七〇〇円）を納めた者、戸主、北海道に本籍を持つ者などは逃れられた。男子のいない家への養子が流行し、夏目漱石は北海道へ戸籍を移して徴兵を逃れた。これらの公的な徴兵逃れ制度はやがて廃止されたが、志賀直哉は裏から手をまわして、耳が悪いことにして逃れた。

このように、明治維新を経て、民衆は国家によつて殺され、殺人者の立場に立たされたのである。これほどの不幸は、ほかにはない。餓死者は減つたかもしないが、強い国家、強い軍隊を作るには、国民が「健康」でなければならない。厚生省はそのような目的で一九三八年に設置されたことを忘れてはならない。

### 3、小作人と労働者はなぜ生まれたか

日常生活においてはどうだったのか。比較対象が江戸時代であり、維新後も統計が確立するのは、たとえば最初の国勢調査が一九二〇年であるよう、かなり後になるので、変化を正確に述べるのは容易ではない。

ここに興味深い記事がある。現在の労働組合の源流である友愛会の機関紙『友愛新報』第3号（一九一三年一月）に、東京帝大出身で監獄学の内務官僚小川（河）滋次郎の「労働神聖論」が掲載されている。小河は鈴木文治との縁で、友愛会に協力しており、前年一二月の友愛会例会で労働者に対して話されたものである。全体の趣旨は、労働者が自身が労働が神聖であることを社会に理解させ、労働者が富国強兵の原動力とならなければならぬというものであるが、そこにあげられている「日本は果して一等国？」という疑問を掲げて引いているデータがおもしろい。なお日本は日清戦争の勝利で「極東の憲兵」、すなわち欧米の帝国主義の代理としてアジア諸国を監視する役割を負わされ、さらに日露戦争で「一等国」と呼ばれるようになり、後の欧州戦争（第一次世界大戦）で五大国に数えられるようになる。

小河はまず、外國貿易高、貯金額が少なく、「世界の三四等国とさへ肩をならべることが出来ない」としたうえで、年間自殺者数が一万一千人で、ドイツ一万二千人、フランス八千人、アメリカ三千人、急増しているロシアで四千人と、日本の自殺者数が多いことを指摘する。次に年間死産者の数。ドイツ六万四千人、フランス三万九千人に対して、日本は一五万四千人と「世界無比である」という。離婚数が第一位というのをどう評価するかはここでは置いておく。犯罪者数が日本は年間八万人で、イギリスは一万五千人など、他国は「極少数であるつまりは人民が悪い」といつて、人民の自覚をうながすのであるが、小河の下す評価は別として、これらの数字は、人民がいかに苦しんでいるかを示している。

江戸時代には、スラム、戦前の用語でいうと「貧民窟」は存在しなかつた。スラムの形成は日清・日露戦争期である。これは、資本制と地主制を確立させるために、政策的に作られた。言いかえれば、労働者と小作人を産み出すためである。

明治六年の政変でただ一人の陸軍大将である西郷隆盛をはじめ、士族陸軍が鹿児島へ移った。山縣有朋が設計した「国民皆兵」の徴兵令を、山縣失脚後、桐野利秋らの反対を押さえてこの年に施行したのは西郷隆盛である。西郷が士族陸軍を鹿児島へ連れて帰つたために、日本陸軍は徴兵制軍

隊にスムースに移行できた。

しかし大久保政権は、地租改正事業、これも西郷らの留守政府が実施したのだが、始まつたばかりで、税収はわずかである。しかし、西郷との戦争のために、陸軍を確立し、武器を購入しなければならない。そのためには紙幣を大量に印刷した。その結果は、当然のインフレである。西南戦争後の一八八一年、松方大蔵卿は紙幣を回収し、デフレ政策を実施した。物価、米価は下落した。高校の授業を思い出してほしい。「地租は地価の三%を金納で」と丸暗記させられたはずである。地価は地券の裏に明記されており、現在の評価額のように、あるいは相場のように変動したりはしない。米価が下がっても、変わらない額の地租を、米を売つて納めなければならぬ。米価が下がると、中小零細農民には、納税が難しくなる。

明治維新によつて、はじめて土地を売るという概念と制度が成立した。江戸時代の土地は誰のものだつたのかという議論は興味深いが、ここでは触れない。松方デフレによつて納税できなくなつた農民は土地を売つて、小作人になる。ここに地主制が成立する。小作料は地租プラス地主の利益だから、当然地租より高額である。小作人の生活は、小作人になる前より厳しくなる。小作人の次男以下は、農村では食べていけない。やむなく都市へ出るが、仕事も住む家もない。スラムが成立すると同時に、低賃金でも働こうとする。当時の工業は織維産業が主で、求められたのは女子労働力であった。男が働ける職場、工場は僅かであった。資本家の側からいえば、徹底した低賃金で労働力を確保できたのである。労働力の析出過程、日本資本主義の原始的蓄積過程を教科書的に見てきたが、松方デフレ下の農村の惨状は、たとえば北村透谷の作品、労働者の暮らしは有名な著作が多く、スラムの状況については興味本位のものも多いが新聞記事（『明治新聞集成編年史』、『大正新聞集成編年史』など）をみてほしい。

#### 4、江戸時代と比較して

江戸時代の農民の暮らしはどうであつたか。学校教育ではいまだに「生かさず、殺さず」的に教えていた教師も多いようだが、研究者の世界からは、佐藤常雄・大石慎三郎『貧農史観の見直し』（講談社現代新書、一九九五年）

をはじめとして、江戸時代の農民は徹底的に収奪されてきたという見方を修正してほしいというアプローチが続いている。また江戸時代後期・末期の被差別民についても、農業以外の生業にもついていた彼らが、商品経済の発展によつてゆとりある暮らしをしていたことが強調されるようになつてゐる。一八八五年の岡山藩汚染一揆は、被差別民に対する被差別民の鬪いであり、撤令が一般民とは別のものであつたことに対する被差別民の鬪いであり、撤回をかちとつた。被差別民に対する僕約令のなかに、絹の着物を着るなどいう項目があつたことが注目される。

渡辺京二『逝きし世の面影』（平凡社、一九〇〇年）は、幕末・明治初期に日本を訪れた西洋人が、日本の庶民とその暮らしぶりを著作のなかでいかに贊美しているかという例を、これでもか、これでもかとうんざりするほど集めた著作であるが、幕末の庶民の暮らしは、通商開始（一般的には「開国」といわれるが、江戸時代は鎖国していなかつたというのが圧倒的多数派）による経済混亂はあつたとしても、もう少し長いスパンでみれば、貧農史観は改められなければならない。

本稿では述べられなかつたが、幕末の識字率は世界でも突出し、江戸時代の衛生環境や上水道の普及は世界でも群を抜いていた。技術を含めた文化面でも豊かなものを持っていた。黒船を見て、日本は遅れていると勘違いたのは、実は軍事面だけであつた。

総じて考えると、明治維新で、人々は確實に不幸になつた。そして天皇制国家は「これが日本文化である」という均質的な「文化」を創作して国民に強制し、文化を貧困なものにした。さらに太平洋戦争中に捏造した、「天皇が將軍を任命して政治を委嘱し、幕府を開かせた」という皇国史觀は、現在でも歴史教育を貫いており、天皇家が世界でもつとも長く続く家柄であるとの幻想をふりまいている。

（未完）



## 合本『反天皇制運動』（上・下）

池内文平

えらいものがあらわれた。第一期・反天連が発行した二ニュース「反天皇制運動」（全83号）の完全復刻合本、二分冊。内容もさることながら重量もかなり、重い。それを天野さんから「プレゼント！」といつて渡された。プレゼントって？ ぼくらには似合わない、あの、「忘れものを届けにきました」って、あれ？ たしかに病気になる以前から出不精がちで「運動」不足ではあった。ちょうどよい機会かな。初心忘るべからず、というけど、初心そのものが何であつたか忘れている記憶喪失の状態ではあるが、スロウ・ストレッチでのこの「時代の贈り物」をのぞいてみよう。

正確にいえば、「第一期・反天皇制運動連絡会」というのは存在しない。「第一期」はあとから付けられた「追号」みたいなもので、当時はそのままの「反天連」。その反天連が毎月出したニュース、つまり今回の合本に収められているのは、一九八四年三月一日の創刊準備号（第0号）から一九九一年二月一日の第83号までの八四冊、プラス、号外・特別号三冊の合計八七冊ぶん。八四年から九一年の七年間なんだけど、現在からだと二七〇三四年前のことになる。

一昨年に山岡強一さんの虐殺三〇年の集会に参加したぼくとしては、三〇年前のことといつてもつい昨日の感覚なのだけど、やっぱり一般的にいって、三〇年前のことなんてついぶん昔の話にちがいない。その大昔に何が問題となつていたか？ 第0号の「反天皇制運動連絡会結成のよびかけ」という文章には、主旨の一番目として「主要に、Xデー及びXデー準備と対決する大衆的反天皇制運動の形成をめざす」と明記されている。

そう、Xデー。裕仁天皇の死ぬ日だ。裕仁は八九年

一月七日に死亡するわけだが、もちろん誰も日付までは測定できず、ただ彼は一九〇一年生まれだから「そろそろ」の想定で、死ぬ日をXデー、その前をXデー。その後を葬儀（喪）と即位（祝）の入り混じる状況、その後を葬儀（喪）と即位（祝）の入り混じる奇妙な期節と設定して、あれこれの予測を交えながら敵の出かたに具体的に対応していく、という毎日だった、と記憶している。だから、そういう意味で、この合本の一頁一頁はリアルタイムのドキュメントであり、それを綴った合本は、それ 자체が運動の流れを体現し、いきいきとそれを伝える「運動体」そのものであるといつてもよい、と思う。

ぼくも、その第一期の事務局に出入りしていて、毎週火曜日の会議はともかく、そのあとに「二次会」にはわりとちゃんと出ていた（という記憶は鮮明にある）が、いっぽうで、ぼくは芝居をやっていて、その当時は「風の旅団」という集団を組んでいた。風の旅団は一九八二年に結成して八三年から九一年まで芝居を続けていたから、第一期の反天連の活動期間と丸ごと重なる。いま合本をめくつてみると、八五年一月の第10号に「風の旅団法大公演弾圧と〈この時代〉」という記事がある。ぼくがこのニュースに書いた最初の（署名）文章で、前年一月の法政大学・市ヶ谷キャンパスでのロックアウトによる公演弾圧の報告だ。そうそう、市ヶ谷付近といえば、八五年は中曾根首相の靖国公式参拝があり、九月の第18号には「8・15戦士」の筆による「8・15靖国神社公式参拝阻止境内抗議闘争顛末記」の実況中継ふう戦闘記が載っている。ちなみにぼくはこれをネタに、同年九月の法大リベンジ公演では、テントの中に巨大な鳥居を立てて、8・15戦闘の「再現」をささやかにやつてみた。が、このシ

ンは意気込みのわりには「やや受け」で、闘争史にも演劇史にも何の役にもたたなかつた、けど。それはともかく、ぼくらはもう一方で山谷に支援に行つていて、その山谷では八三年一月三日にヤクザが「大日本皇誠会」の名で登場、八四年一月三日には佐藤満夫さんが刺殺され、八六年一月三日には山岡強一さんが射殺された。ニュースの最初の「号外」は八六年一月六日付の「山岡強一氏追悼」の号である。

以上は、ぼくの関心領域でちょっと振り返つてみたものだけど、みんなはどうなんだろう？ 死ぬだけ、襲名するだけで、万人に迷惑をかけまくる天皇制のことだから、合本の各ページに登場する一つひとつ記事は、みんながそれぞれ相互につながつていく「経験」になつてゐるにちがいない。

と、（ついでに）大切なことを書きそえておけば、なんといっても「手書き」。ワープロではなく手で書いた誌面の数々だ。さつきこの合本はドキュメントであり運動体であるといつたけど、読みながら感じる抜けたライブ感は、書かれた内容もさることながら、書かれたたたつまり「手書き」にあるとぼくには思える。もちろんこれはメソッド嫌いで、つねに現在性に重きをおくテント芝居育ちのぼくだけの好みかもしれない。

とまれ、この文章が載るのは、合本よりも二七年あとの第X期・反天連のニュース、通巻404号だ。「残り」はこの合本の約四倍はある。過去は、長い。それだけくみ取れる「時代の贈り物」は豊富だ、ということにしておこう。

# 太田昌國の夢は夜ひらく 95

みたび

## 現首相の価値観が出来させた内政・外交の行説り

我慢して、安倍晋三氏が書いた（らしき）本や対談本、安倍論などを読み始めたのは、二〇〇二年九月一七日の日朝首脳会談を経て、数年が過ぎたころからだったか。その数年間には、彼が拉致問題を理由にした対朝鮮強硬派であるがゆえにメディア上での注目度が上がった歳月や、二〇〇一年に「慰安婦」問題を扱ったNHK番組に関して、「勘ぐれ」という言葉を用いてNHK幹部に改竄するよう圧力をかけたことが明るみに出た二〇〇五年の日々が含まれている。やがて二〇〇六年、小泉氏の後継者をめぐる自民党総裁選が近づくと、件のNHKニュースは、安倍氏に「国民的人気が高い」という形容詞を漏れなく付けるようになった。それ以降現在にまで至る経緯は、もはや、付け加えることもないだろう。

最初の本を目にした時から、とんでもない人物が台頭してきたものだとつくづく思った。論理がない、倫理もない、歴史的な知識も展望もない、あるのは、ギラギラした、内向きで排外主義的なナショナリズムだけだ。昔の「保守」はこれほどひどいものではなかつた、と独り言ちた。一九八〇年代後半以降、『正論』『諸君!』

などの極右雑誌に目立ち始めた、歴史の偽造を厭わない低劣な文章群は、とうとう、こんな政治家を生み出す社会的な基盤を造成したのかと慨嘆した。そうは思いつつも、拉致問題の捉え方を軸にその言動の批判的な分析は続けてきた。だから、関連書を読み続けたのだ。そのとき思つた――右翼がここまで劣化すると、左翼も危ないぞ、と。まもなく、ソ連的社会主义体制が崩壊して、左翼は危ないどころか、理念的にはともかく運動としてはほぼ消滅した。

批判的な左翼が消えた時代に、安倍的な価値意識に彩られた社会が花開いた。五年有余が経ち（わずか一年で瓦解した第一次政権の成立時から数えると一二年が経ち）、その結果を私たちは日々見ている／見せられている。改竄・隠蔽・捏造が公然と罷り通る内政の荒廃ぶりは、かくまでか、と思うほどだ。幼稚園の子どもたちに教育勅語を暗唱させ、軍歌を歌わせ、首相の妻を前に安保法制の議会通過を喜ぶ台詞を齊唱させて彼女を涙ぐませるような「愛国主義教育」を行なうことを目指した私学経営者に、首相とその取り巻きが肩入れし、国有地の安価な払い下げと設立認可を急いだ――森友学園問題のこ

の原点に、強権主義的な安倍政治の本質がまぎれもなくじみ出ている。

米国頼み一本鎗が「方針」であつたかのよう

な外交の行き詰まりぶりも、内政同様、見苦しい。

今年度初頭の金正恩氏の路線転換以来、朝鮮半島情勢はめざましい進展ぶりをみせている。対



朝鮮外交における「対話ではなく圧力」路線の盟友であったトランプ米大統領は来る五月の米朝首脳会談を決意する一方、日本に対する輸入制限も発動した。「日本ひとりが蚊帳の外」という印象がぬぐい難い。

あるジャーナリストの調査によると、首相がこの五年間、「拉致問題は、安倍内閣の最重要課題であります」と本会議や委員会で語つたのは五四回に上るという。年に一〇回以上もこんな発言をしていることになる。その実、解決のための努力を少しもしていないことは、蓮池透氏や私が夙に指摘してきたとおりである。拉致問題あつたればこそ首相に上りつめた彼は、自らが煽った「朝鮮への憎悪感情」が社会に充満していることが政権維持の必要条件なのだから、日朝関係は現状のままでよいのだろう。去る二月の日韓首脳会談において、「米韓合同軍事演習を延期するな」と主張した首相に、「我が国の大統領の問題」とする韓国大統領は反発した。一六〇カ国との外交関係を持つ朝鮮との断交を国際会議で求めた日本国外相の演説は、あるべき外交政策を知らぬその無知無策ぶりに、心ある外交官の失笑を買つただろう。この期に及んで外相は韓国へ行き、四月の韓朝首脳会談で拉

致問題に触れるよう、韓国外相に要請するとい  
う。首相は「盟友」トランプに会いに行き、五  
月の米朝首脳会談での同じふるまいを頼むのだ  
という。自力解決の意図も能力もないことを自  
白したに等しい。河野外相はさらに、三月三一  
日に「北朝鮮は次の核実験の用意を一生懸命やつ

ているのも見える」と語った。私も時々見てい  
る米ジョンズ・ホップキンズ大学の朝鮮分析サイ  
ト「38NORTH」は、逆にその動きは激減してい  
るとして、外相発言の根拠に疑問を投げかけて  
いる。中国外務省は、各国が東アジアの緊張緩  
和に向けて努力を積み重ねている時に「その過

程から冷遇されている日本は、足を引っ張るな」と不快感を示した。  
かくも無惨な外交路線があり得ようか。内政・  
外交ともに進退窮まっている現政権の現状は確  
認できた。次は何か、が私たちの課題だ。  
(4月7日記)

## マスコミの天皇制 21

### （3・11）国家儀礼と11回目の天皇沖縄訪問 〈壊憲天皇明仁〉 その19

一 恵 野 天

多様な抗議行動がくりひろげられた（3・11）原発震災から七年目の三月一日、私は、東京都千代田区にある日本原電本店前の、「日本原電は東海第二原発を再稼働するな！」首都圏の原発を止めよう！」の呼びかけを発した抗議行動に全力を集中した。東海第二原発のある茨城県内各地から集まつた人々と東京周辺から合流した人々を「本店」前に案内し続ける作業である。「再稼働阻止全国ネット」のスタッフとしての活動だ。五〇〇名の人々の本店包囲の抗議の中でも、政府・電力会社（東電ら）がキチンと被災者に責任を取ろうとしていないことと、原発再稼働の動きは、メダルの表裏の関係にあることが語られていた。この加害への無責任と、新たな放射能ふりまき政策（再稼働）の加速の現実を〈美しい言葉〉で操作的に隠蔽するためのマスコミじかけの国家儀礼が、今年も持たれ、安倍首相の被災者（他）に心を寄せているかのごときスピーチが、今年

もくりかえされた。もちろん明仁天皇からバトンタッチした、次の次の天皇予定者「秋篠宮」の被災者（他）に寄り添うような言葉も、首相のスピーチの上にかぶさるようにふりまかれた。こうした天皇（皇族）を中心とした国家儀礼は国家の責任を忘却させ、人々を新たに国（天皇）にすがりついていくのが当然という気分の方へ向かって組織していくため、象徴天皇制国家の高度に政治的な儀礼なのだ。だから「8・15」式典同様、政府は毎年、忘ることなくくり返すのである。

三月二四日「天皇『代替わり』と安保・沖縄を考える4・28・29連続行動実行委員会」主催の集会「自衛隊配備と天皇の与那国訪問」で、私は主催者側の報告者として発言。この集まりは三月二七日から二九日の三日間の、アキヒト天皇（夫婦）の、おそらく最後の、皇太子時代を含めて一回目の沖縄訪問を覗んでの抗議集会である。これは、自衛隊配備強化が進む与那国へもわざ

わざ足をはこぶ、軍事強国を目指す安倍政権の露払いという天皇政治だ。天皇夫妻が「平和主義」者としてふるまい、しきりとそう自己アップールしていることが、「積極的平和主義」という政治的ペールをかぶせて米軍にくつづいての軍事強化路線をひた走っている安倍政治にとつて、フルに利用価値があるのだろう。

もちろん、沖縄メディアも含めて、全マスコミがクローズアップしているのは、天皇の「平和」のための沖縄戦死者たちへの「慰靈」行動（儀式）である。

三月二七日の『産経新聞』のコラムには、こうある。

「石をぶつけられても」という覚悟を決められたという。皇太子ご夫妻時代の天皇、皇后両陛下が初めて沖縄を訪問されたのは、昭和50年7月である。本土復帰からまだ3年しかたっていない。皇室にたいする複雑な感情が渦巻いていた▼南部戦跡にある慰靈碑『ひめゆりの塔』で事件は起こつた。地下壕にひそんでいた2人の過激派に投げつけられたのは火炎瓶である」。

この経験が、「長く続く戦没者の『慰靈の旅』の原点になつた」と、文章は続く。「何事もなかつ

たかのよう」沖縄訪問が繰り返されることで、天皇夫妻の「お詫びの気分」が沖縄の人々につたわって、天皇への反発から感謝へと時代は移ったのだ、そう語りたいのだろう。国家の支配者のネライはその通りであり、天皇夫妻は、その方向へ向けて、フル稼働である。

私は、この日の集まりに、火炎瓶を投げた知功のドキュメント『ひめゆりの怨念火』（一九九一年・インパクト出版会）を読みなおして出かけた。

寄せ場の活動のリーダーでもあつた船本洲治の皇子來沖抗議の嘉手納基地での焼身自殺（75年6月24日）もあり、この時の沖縄の「戦犯天皇沖縄上陸」への抗議行動は激烈なものであつたが、それは労働組合・地域住民組織のしたたかで幅広い反対行動の流れの中に突出した行為であつたことが、その本でよく読めた。もう一点、知念らの裁判の口ジック。公務執行妨害というが、天皇夫妻の行為は「公務とはなんら関係ない」から「無罪」とい

# 一野次思日記

3月1日～3月31日

【3月1日】

久子◆故高円宮の妻久子が、日本心臓財団の名誉総裁に就任。

【3月4日】

代替わり◆政府が、2019年5月1日の新天皇即位に伴つて実施される「劍璽等承継の儀」を巡り、首相や閣僚、衆参両院議長、最高裁長官ら参列者について、女性の出席を可能とする方向で検討に入つたと、政府筋が明らかに。女性皇族の立ち会いについて、男性限定の前例から認められないとの意見が強く、対照的な対応となる可能性があると報道。

【3月6日】

代替わり◆政府が閣議で、2019年4月30日の明仁の退位に伴い「退位の礼」を行ふとする政令を決定。退位日の同日に施行するもので、明仁が退位後に「上皇」、美智子が「上皇后」に就いた後の関連規定も整備し、生活費は、明仁とその家族の日常経費に充てる「内廷費」から支出すると定めたと報道。

【3月7日】

代替わり◆政府が閣議で、2019年4月30日の明仁の退位に伴い「退位の礼」を行ふとする政令を決定。退位日の同日に施行するもので、明仁が退位後に「上皇」、美智子が「上皇后」に就いた後の関連規定も整備し、生活費は、明仁とその家族の日常経費に充てる「内廷費」から支出すると定めたと報道。

【3月8日】

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が27～29日の日程で、沖縄県を訪問する度台の発熱の症状が出て、インフルエンザと診断されたと発表。

【3月9日】

明仁、美智子◆市町村が消防を運営する「慰安婦」問題◆旧日本軍の元「従軍慰安婦」を支援する「韓国挺身隊問題対策協議会」が主催し、外国の支援団体も集まつた「アジア連帯会議」がソウルで開かれ、韓国をはじめ「慰安婦」問題の「被害国政府」が連携して日本政府に問題解決や真相究明を促すべきだとの要求事項をまとめる。

【3月10日】

会食◆安倍晋三首相が、東京・高輪の「高輪館」で、日本テレビの大久保好男社長と相谷賢之・報道解説委員長と会食。

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が27～29日の日程で、沖縄県を訪問する度台の発熱の症状が出て、インフルエンザと診断されたと発表。

大逆事件◆「明治」末期の大逆事件で獄死した臨済宗妙心寺派の僧侶峰尾節堂

（1885～1919年）の百回忌を迎え、徳仁◆東京・上野の東京国立博物館の平生誕地の和歌山県新宮市で、墓の前に石碑が建てられる。人権尊重を願う言葉が刻まれていると報道。

改憲◆希望の党が憲法調査会（会長・細野豪志・元環境相）で、首相による衆院解散権の制約を改憲案に盛り込む方針でのとなりますが、心からお待ち申し上げる」とのコメントを出す。

裕仁◆裕仁が採集した、クモヒトデの仲間で主に深海にすむ「テヅルモヅル」の標本が新種だと分かつたと、東京大の岡西政典・特任助教（動物分類学）らが、ニュージーランドの科学誌ズータクサに発表。

「慰安婦」問題◆旧日本軍の元「従軍慰安婦」を支援する「韓国挺身隊問題対策協議会」が主催し、外国の支援団体も集まつた「アジア連帯会議」がソウルで開かれ、韓国をはじめ「慰安婦」問題の「被害国政府」が連携して日本政府に問題解決や真相究明を促すべきだとの要求事項をまとめる。

**明仁**、**美智子**◆東京都新宿区の東京オペラシティコンサートホールを訪れ、東日本大震災の復興支援チャリティーコンサートを鑑賞。鑑賞後、合唱部の生徒らと懇談。

スリランカのシリセナ大統領夫妻と会見  
宮内庁によると、大統領が病院や学校の  
建設などの支援に謝意を示し、明仁が車  
日本大震災での支援に「心から感謝して  
おります」と伝えたと報道。第2次大統領

明仁、美智子◆翌年の代替わり後に仮住まいすることが決まっている東京都港区の高輪皇族邸（旧高松宮邸）を訪れ、この度目の下見。宮内庁は当初、運動室や研究室を設けるため、敷地内に仮設の建物

【3月19日】  
これに先立ち、経由地の米南部フロリダ州マイアミで、現地の日本や米国などの子供たちが日本の教科書で学習する補習校を訪問。郊外にある植物園を見学。

**私篤宮**　紀子◆東京大空襲から75年を迎えた。遺骨が納められている東京都慰靈堂（墨田区）で営まれた法要に参列。

避難指示解除地域◆東京電力福島第一原発事故の避難指示が前年春に一部で解除された福島県の4町村のうち、富岡町と浪江町の住民の約半数が帰還しない意向を示したことが、復興庁などが実施した調査で分かる。

明仁、美智子◆東日本大震災から7年ヒ  
【3月11日】

なり、明仁の定期健康診断のためにそろって訪れていた宮内庁病院で、発生時刻に合わせて黙としたと、宮内庁侍従職が明らかに。

**秋篠宮 紀子**◆東日本大震災の発生から7年を迎える、東京都の国立劇場で開かれた政府主催の追悼式に参列。秋篠宮「難生活が長期化する中、被災者の心身の健康のことばは深く心に掛かります」。

国籍喪失規定◆日本人として生まれ、後

に外国籍を取得した欧洲在住者ら8人が  
外国语を取得すれば日本国籍を失う国籍  
法の規定で祖国とのつながりが奪われた  
として、國に日本国籍の維持などを求め  
て9日付で東京地裁に提訴したと報道。

【3月13日】

スリランカのシリセナ大統領夫妻と会見  
官内庁によると、大統領が病院や学校の  
建設などの支援に謝意を示し、明仁が東  
日本大震災での支援に「心から感謝して  
おります」と伝えたと報道。第2次大統領  
後のサンフランシスコ講和会議で「憎害を  
言したスリランカ初代大統領のジャヤラ  
ルデネについて触れ「日本に対し、温か  
は憎悪によってではなく、愛によってや  
む」と演説し、対日賠償請求の放棄を宣  
言したスリランカ初代大統領のジャヤラ  
ルデネについて触れ「日本に対し、温か  
い言葉を述べたことをよく覚えている  
と話した」という。

言したスリランカ初代大統領のジャヤラーム・ルデネについて触れ、「日本に対し、温暖な言葉を述べたことをよく覚えている」と話したと。発表。

【3月16日】  
報道。  
徳仁◆ブラジルで開かれる「第8回世  
水フォーラム」に出席するため、成田空  
港から出発する。成田空港では、内閣  
官房長官の菅義偉が、徳仁天皇の行  
け先を案内する。天皇は、成田空港  
から飛行機で、新千歳空港へ向かう。  
（3月16日）

反基地運動弾圧◆米軍普天間飛行場の々  
護市辺野古移設への抗議活動に伴い、威  
力業務妨害罪などに問われた反対派リーダー、沖縄平和運動センター議長の山城博治被告に、那霸地裁が、懲役2年、執行猶予3年（求刑懲役2年6月）の判決を言い渡す。被告が即日控訴。判決理由で柴田寿宏・裁判長「憲法で保障され表現の自由の範囲を逸脱している。犯罪行為であり、正当化できない」。

**【3月16日】**  
徳仁◆**「**ブラジルで開かれる「第8回世田谷水泳大会」に出席するため、成田登の民間機で現地に向かう。「私的」旅行の位置付けと報道。

代替わり◆菅義偉・官房長官が記者会見で、2019年5月1日の新天皇即位に伴って実施される「剣璽等承継の儀」への皇族の参列者を巡り「平成の代替わりの例を踏襲することを基本に今後検討する」。1989年の明仁の剣璽等承継の儀では、皇族は男性の出席に限定しており、翌年の儀式もそれにならう可能性があつたと示唆した発言。新天皇即位の儀式などの中の方針を3月に決定するとした上で、「(参列者など) 各式典の詳細については、基本方針を踏まえて四條検討する」。

贈ったと発表。美智子が皇居内の紅葉山御養蚕所で育てた日本純産種の蚕「小石丸」の絹糸を使つたひもや箱なども一緒に贈つており、明仁、美智子が2016年4月、檜原市にある神武天皇陵を参拝し、神武天皇の没後2600年式年祭に臨んだ際、2人から銅鏡を贈りたいとの意向が示され、制作を進めていたというと報道。

徳仁◆ブラジルに到着。首都ブラジリアで「第8回世界水フォーラム」の開会式に出席。英語であいさつし「水に関する歴史上の経験と知恵から学び、水に関する情報を共有し、水を保全し利用するため協力しなくてはならない」。これに先立ち、ブラジリア郊外の「セラード農牧研究センター」を視察。現地の日本大使公邸で日系人約50人と懇談。当年は日本人のブラジル移住から110年で、関連

**徳仁◆**「第8回世界水フォーラム」に出席するため、開催地のブラジルに向け経由地の米南部フロリダ州マイアミに到着。宿泊先のホテルで1泊。

福島原発事故◆国連人権理事会（47カ国）が、日本の人権状況の審査に関する会合を開く。東京電力福島第1原発事故後、行事が企画されているとして一成功をお祝りしております」。

**【3月18日】**

福島県郡山市から避難し、大阪市で子ども2人と生活する女性がNGOを代表し

て演説、支援継続の必要性を訴える。市民を放射線から守る日本政府の施策は不十分だと指摘。

### 【3月20日】

美智子・雅子・秋篠宮・紀子◆春卒業の音大生による演奏会が皇居・東御苑の音楽ホール「桃華樂堂」で開かれ、美智子や雅子、秋篠宮、紀子らが鑑賞。

美智子◆宮内庁が、美智子が脚に強い痛みがあり、春分の日である21日に予定されている宮中祭祀「春季皇靈祭・神殿祭」の儀への出席を取りやめる、と発表。

秋分の日にある「秋季皇靈祭・神殿祭の儀」への出席も取りやめるというと報道。

徳仁◆ブラジルの首都ブラジリアで日本の企業や団体などが開催するパビリオンを観察。開催中の「第8回世界水フォーラム」で「水と災害」をテーマにした会合に出席し、英語で講演。地球温暖化などによる水害に触れ「自然の脅威に対抗するため、国際社会は結束して対処していく必要がある」。講演後、記者団に「水問題を解決することが平和につながるという最近の動きを感じた」。

朝鮮学校◆大阪府内の朝鮮学校を運営する学校法人「大阪朝鮮学園」(大阪市)が、大阪府と市による補助金の不支給決定の取り消しと支給義務づけを求めた訴訟の控訴審判決で、大阪高裁が、請求を棄却した一審大阪地裁判決を支持、学園側の控訴を棄却。

武器輸出◆防衛省が、海上自衛隊の練習機「T C 90」3機を26日にフィリピン海軍に對して無償で引き渡すと発表。武器輸出◆防衛省が、海上自衛隊の練習機「T C 90」3機を26日にフィリピン海軍に對して無償で引き渡すと発表。

【3月21日】  
徳仁◆首都ブラジリア発の民間機で帰国途に就く。  
【3月21日】  
春季皇靈祭・神殿祭◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「春季皇靈祭・神殿祭の儀」に参列。

### 【3月22日】

明仁◆宮内庁が、ハゼの研究をしている明仁が魚類学者らと共に解説の執筆に加わった魚類図鑑「日本魚類館」(小学館)が発刊した、と発表。

徳仁◆ブラジルから成田空港着の民間機で帰国。

代替わり◆共産党の志位和夫・委員長が記者会見で、明仁の退位や新天皇即位の儀式について、政府だけでなく各党の議論を踏まえ、合意形成を図り決定すべきだとの見解を表明。憲法の「国民主権」、政教分離の原則を厳格に守る観点から、新天皇即位に伴う「剣璽等承継の儀」など三つの儀式の「国事行為」としての実施に反対する姿勢を示し、「今回は前回と同じく必要がある」。講演後、記者団に「水問題を解決することが平和につながるという最近の動きを感じた」。

【3月23日】  
明仁・美智子◆8月上旬、北海道の利尻島を訪問することを宮内庁が検討していると報道。宮内庁関係者によると、2人

は、明治政府が1869年に蝦夷地を「北海道」と定めてから150年目を記念する式典が8月5日に開かれるのに合わせて札幌市を訪問し、その後で利尻島に足を運ぶ見通し。

### 【3月25日】

明仁・美智子◆8月上旬、北海道の利尻島を訪問することを宮内庁が検討していると報道。宮内庁関係者によると、2人

乾通り公開◆皇居・乾通りの一般公開が始まる。

### 【3月24日】

乾通り公開◆皇居・乾通りの一般公開が始まる。

代替わり◆共産党の志位和夫・委員長が記者会見で、明仁の退位や新天皇即位の儀式について、政府だけでなく各党の議論を踏まえ、合意形成を図り決定すべきだとの見解を表明。憲法の「国民主権」、政教分離の原則を厳格に守る観点から、新天皇即位に伴う「剣璽等承継の儀」など三つの儀式の「国事行為」としての実施に反対する姿勢を示し、「今回は前回と同じく必要がある」。講演後、記者団に「水問題を解決することが平和につながるという最近の動きを感じた」。

【3月26日】  
明仁・美智子◆8月上旬、北海道の利尻島を訪問することを宮内庁が検討していると報道。宮内庁関係者によると、2人

は、明治政府が1869年に蝦夷地を「北海道」と定めてから150年目を記念する式典が8月5日に開かれるのに合わせて札幌市を訪問し、その後で利尻島に足を運ぶ見通し。

### 【3月28日】

明仁・美智子◆那覇発の特別機で、日本最西端の与那国島を初めて訪問し、日本

【3月28日】  
明仁・美智子◆那覇発の特別機で、日本最西端の与那国島を初めて訪問し、日本

東御苑の総入園者数が、1968年10月の公開から3千万人に到達したと報道。

皇太子一家◆「静養」のため、北陸新幹線で長野県入り。宮内庁は、雅子は療養生活が続いている、「静かな環境を確保するため」として、具体的な滞在先や期間を明らかにしないよう報道各社に要請していると報道。

【3月29日】  
明仁・美智子◆東京都渋谷区のチャコ大使館を訪れ、開催中の文学展「変わらぬ原作、変わり続ける翻訳―日本とK・チャペックの文学」を見学。

秋篠宮・紀子◆宮内庁が、秋篠宮、紀子が6月に米ハワイを「公式訪問」する方

【3月29日】  
明仁・美智子◆沖縄県豊見城市の沖縄空

イに移住して当年で150周年となることを記念する式典などに出席し、秋篠宮の途に就く。

【3月29日】  
在沖米軍基地交付金◆防衛省沖縄防衛局の中嶋浩一郎局長が、沖縄県名護市の渡具知武豊市長と市役所で面会し、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古移設に反対した前市長時代に中止していた米軍再編交付金を再開する方針を正式に伝える。

【3月27日】  
明仁・美智子◆羽田発の特別機で沖縄県入り。糸満市の国立沖縄戦没者墓苑を訪ね、沖縄戦で死亡した約18万人の遺骨を納めた納骨堂に白菊を供え拝礼。墓苑に先立ち、沖縄平和祈念堂を訪れる。宿舎のホテルで、1962年から沖縄県と本土の子どもたちの交流を目的に派遣が始まった「豆記者」と懇談。

【3月27日】  
明仁・美智子◆羽田発の特別機で沖縄県入り。糸満市の国立沖縄戦没者墓苑を訪ね、沖縄戦で死亡した約18万人の遺骨を納めた納骨堂に白菊を供え拝礼。墓苑に先立ち、沖縄平和祈念堂を訪れる。宿舎のホテルで、1962年から沖縄県と本土の子どもたちの交流を目的に派遣が始まった「豆記者」と懇談。

訴訟の判決で、大阪地裁が処分を適法と判断し、請求を全面的に棄却。

### 【3月27日】

明仁・美智子◆羽田発の特別機で沖縄県入り。糸満市の国立沖縄戦没者墓苑を訪ね、沖縄戦で死亡した約18万人の遺骨を納めた納骨堂に白菊を供え拝礼。墓苑に先立ち、沖縄平和祈念堂を訪れる。宿舎のホテルで、1962年から沖縄県と本土の子どもたちの交流を目的に派遣が始まった「豆記者」と懇談。

手会館を視察。沖縄発祥の空手の歴史が分かる展示や、熟練した空手家の演武を見学。演武を披露した空手家と懇談。那覇市の寺町幾で『昂天』。

〔3月30日〕

皇太子一家◆長野県での26日からの「静養」を終え、北陸新幹線で帰京。代替わり◆政府が、明仁の退位や新天皇の即位に伴う儀式の在り方を検討する準備委員会の第3回会合を首相官邸で開き、各儀式の骨格を定めた基本方針を決定。新天皇の即位の礼の中心儀式「即位礼正殿の儀」を2019年10月22日に「国事行為」として開催、「大嘗祭」を「公的」な皇室行事にすることが柱と報道。「剣璽等承継の儀」への皇族の参列者について男性皇族のみにすると決め、退位礼正殿の儀などの儀式も「国事行為」とするほか、19年2月24日に東京都内で開く「天皇陛下在位30年記念式典」は内閣の行事

として執り行うと報道。大嘗祭について宮内庁が、中心的儀式「大嘗宮の儀」を19年11月14～15日に行うと発表。政府は安倍晋三首相を表す「大臣委員会(反

### 3・11「皇族出席の追悼式典」・ 一斉默祷反対闘争



日比谷公園から行つた。

参加者は二〇人超、「日の丸」を打ち振る右翼の罵声と機動隊、公安警察に囲ま

れながら、政府・東電の責任を追及する反天皇制、反原発闘争の声を上げ続けた。経産省、関西電力支社から一四時四六分、

「効を止めよう！」日本原電前行動に参加し、一八時から「3・11行動」主催の集会を京橋区民会館（中央区）で行つた。元原発労働者（福島から）から「廃炉・除染労働の現場から」と題して報告を受けた。

一万を勝ちとつたら、日当が一万多前後から地域最賃の六〇〇円に下げられた。上、寮費や食費などの天引きが始まつた。もっと労働者に目を向けてほしい。重層的下請けは土木や建築現場では蔓延してゐると訴えた。

こされ、「一部に違憲の疑い」を指摘する判断があつたものの、確定した違憲判断はなかつたとして「前回で議論が尽くされた」と理解している。／  
宮内庁が、東宮侍従と東宮女官を4月1日から各1人増員すると発表。翌年5月1日の新天皇即位に向けた対応で東宮侍従

内閣法制次長の定年を翌年3月末まで1年延長する人事を発表。翌年4月30日に予定される明仁の退位に関する憲法問題に精通しているとして、定年延長が決まつたと報道。

安倍晋三首相を主として、一式典委員会（仮称）」を秋に設置し、各儀式の詳細な式次第などをまとめた大綱を策定するとともに、府省庁間の事務調整を担う「式典実施連絡本部（仮称）」も発足させる方針で、菅義偉・官房長官が記者会見で「内閣が一丸となつて準備を進める」。宮内庁の西村泰彦次長が、「大嘗祭」に国費が使われることを巡り、「平成」の代替わりの際に政教分離に反するとして複数の訴訟が起

者御所で春の「ハシマニ」(官女アリの絵)を開催すると報道。期間中、紫宸殿の正面近くを通る特別ルートで参観でき、即位の礼に使われる高御座や御帳台、御常御殿や小御所でふすま絵が見ることができるという。

従は6人、東宮女官は5人になると報道。

### 一 3・11 「皇族出席の追悼式典」・ 一斉默祷反対闘争

大きな申し入れ書「東電はすべての資産をはきだし、被害者に謝罪と賠償をせよ！」を東電につき付け、桜田公園までかけの「原発事故は終わっていない！再稼働反対・責任隠蔽の『皇族出席の追悼式典』・『斉黙祷反対！』集会・デモを、ネット呼びかけの「東海第二原発の再稼働阻止全国統一」で、三月一日、今年も「3・11行動」呼びかけの「原発事故は終わっていない！再稼働反対・責任隠蔽の『皇族出席の追悼式典』・『斉黙祷反対！』集会・デモを、ネット呼びかけの「東海第二原発の再稼働阻止全国統一」で、

「3・11」の後、福島に行き、最初は国直轄の楢葉町の先行除染の現場、その後第一原発で休憩所の官吏、汚染水タンク解体などで働いた。楢葉町で「特殊勤務手当」の未払いと闘い、やつと危険手当

統いて「4・28—29連続行動実行委」などのアピールを受け、今年の闘争を終えた。



天皇の沖縄への「慰靈の旅」と  
与那国島訪問について考える練  
馬集会

い  
る

三月一六日（金）夜、練馬区厚生文化会館にて、表記集会が行われた。今回の集会は、天皇夫妻の六回目の沖縄訪問、初めての与那国島訪問を前にして急遽企画されたもので、多くの人々が国会前に駆けつけている最中で集まりが心配されましたが、約三〇名の方々が参加し、講師の話に熱心に耳を傾けた。

続いて、会のメンバーである池田五律さんからは、明仁天皇の「慰靈の旅」全體を振り返るとともに、琉球弧全域への自衛隊配備増強について分析した。そして、今後、天皇代替わりを経て、「慰靈の旅」が「(自衛隊)慰問の旅」と推移していく可能性を示唆した。

その後、フロアから質問や発言が受けたが、殊に、与那国出身のMさんが、自衛隊配備について、とても憂いでいらっしゃったことが印象的であった。

当会では今後リバレットの作成  
六月には学習会第三弾を予定している。  
(アヒート退位・ナルヒト即位問題を考え  
る練馬の会／中川信明)

## 天皇の沖縄・与那国訪問を問う 反天実行委の集会

関心で、なかなか正確な情報を入手できぬ。一方で、二月後半には公安刑事一二名が入ってきており、陸上自衛隊駐屯地には、機動隊用の仮設トイレが準備されているとのこと。奇しくも、天皇が来島する二八日は、駐屯地が開設されて二周年で、その陸自と天皇夫妻の何らか

天皇の沖縄・与那国訪問を問う  
反天実行委の集会

三月二七日、アキヒト・ミチコは沖縄  
与那国を訪問した。それを前にした「三四  
日、天皇「代替わり」と安保・沖縄を考

える4・28—29連続行動は、駒込地域文化創造館において、「天皇の沖縄・与那国訪問を問う3・24集会」をもつた。講師は沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの大仲尊さんと、反天連の天野恵一。

島ビースアクション実行委員会の清水良子さんからのメッセージも代読された。最後に、実行委によつて集会宣言が提起され、4・28—29連続行動への結集が呼びかけられた。

天皇沖縄訪問を報じるメディアのトーンは、「日々沖縄に思いを寄せ続け『戦争の記憶風化』を懸念する両陛下」というものだ。そして、「本土」と沖縄の間の「歴史的なこり」を、天皇夫婦の活動が率

500人集中行動へのよびかけ、宮古島ピースアクション実行委員会の清水田子さんからのメッセージも代読された。最後に、実行委によつて集会宣言が提起され、4・28—29連続行動への結集が呼びかけられた。

500人集中行動へのよびかけ、宮士島ピースアクション実行委員会の清水良子さんからのメッセージも代読された。最後に、実行委によつて集会宣言が提起され、4・28—29連続行動への結集が呼びかけられた。

天皇沖縄訪問を報じるメディアのトンは、「日々沖縄に想いを寄せ続け『戦争の記憶風化』を懸念する両陛下」というものだ。そして、「本土」と沖縄の間の「歴史的なしこり」を、天皇夫婦の活動が療していったという話だ。今後の行動を通して、その欺瞞性と政治的意味を、はつきりと批判していくかなくてはならない

でも接触する場があるはずだ、と注意を喚起した。そして、与那国の「軍神」大

明治150年式典・キャンペー  
ンと「生前退位」

明治150年式典・キャンペー  
ンと「生前退位」

三月二十五日、午後二時からピープルズ  
プラン研究所会議室で、「『平成』代替り

の政治を問う連続講座の第4回「明治150年式典・キャンペーント「生前退位」——近代天皇制国家を問う」が開催された。参加者は約25人。

この連続講座は「平成天皇制代替りの政治」のプロセスを、まず正面から緻密に批判検証する作業を通して「ここ3年以内の「退位・新天皇即位」の政治イベントに有効に対決」するという意図で、二ヶ月に一回のペースで一年以上連続して開催される。

田昌国さんと伊藤晃さんと天野恵一さんが問題提起をするという形で行われた。

まず伊藤さんが「①現代日本国家の二つの国家目標」「②明治国家の国家目標」「③19世紀から20世紀へ」「④戦後『国是』の成立」「⑤日本の野望への世界的批判」について、一括りにして。

次に太田さんが、「①現在の東アジアの状況の中で」「②『明治150年記念』(2018年)」「北海道命名150年記念(2019年)」「③『明治12年』」「琉球処分(1870年)」「④吉田松陰の『予言』」「⑤対置し得るもの」の五点について話された。

に近かつたのに、現在は「国境の砦」に  
変えられてしまった。与那国は、自衛隊  
の進出によつて危機的な状況に置かれて  
与那国での天皇のスケジュールについて  
検討し、牧場やヨナガニサンという蛾  
を見るというが、どこかで自衛隊と非公然

(実)行委／北野誉

内好、桑原武夫」「3近代（国家主義ナショナリズム）／資本・産業／科学・発展・主義の内側から近代を超える方法の失敗と敗北」の三点から、マスコミと天皇制の關係を批判的に論じられた。

近くに及び、今回も熱の入つたものとなつた。

# 〔学習会報告〕 T・フジタニ『天皇のページェント』 (NHKブックス、一九九四年)

発言後の質疑応答を含め講座は四時間前の一〇月二一日は自分たちが新宿等でベトナム反戦の大きな闘争を行なつていたことなどが話された。

天野さんの発言の冒頭では、「明治百年」であつた一九六八年に学生運動をしていた自分たちが、「明治百年」キャンペーンに対抗して何かをやった記憶はないが、改めて記憶を辿れば一九六八年の

近くに及び、今回も熱の入つたものとなつた。



(講座実行委／田中)

会報告参照

会報告参考(3月21日(水))

統合情報 INFORMATION

3月11日（日）●原発事故は終わっていない！再稼働反対 責任隠蔽の「皇族出席の追悼式典」・一斉黙祷反対！3・11行動（集会報告参照）

●事故から7年 追悼と東電抗議

●日本原電本店前抗議

3月14日（水）●警視庁機動隊沖縄派遣は違法 住民訴訟第6回口頭弁論

3月16日(水)●天皇の沖縄への「慰靈の旅」と与那国島訪問について考える集会(集

政治を問う・連続講座第4回 明治  
150年式典・キャンペーンと「生前  
退位」

四

集会情報 INFORMATION

13時30分開場／府中市市民活動センター・プラット第3議室（京王線府中駅南口）／大庭伸介／主催・2018多摩地域マーチ実行委員会

A.M.・女たちの戦争と平和資料館  
下鉄早稲田駅ほか) / 連絡先・同館  
(03-33202-4633)

前回のテキストは不評だったが、今回  
はとても面白く読んだという感想で一致  
した。

本書のテーマは、「近代日本のナショナリズムが誕生するうえで公的な国家儀礼が果たした役割を再確認」することにある。この本では、近代日本の國家の儀礼空間を「ページメント（野外劇、見世物）

近代の產物としての「伝統の發明」というのは、すでにおなじみの議論といえ

るが、近代日本の天皇崇拜も、「あまり  
られていなかつた天皇を中心とする國  
の過去を想起させる」ものとして作り  
されていつた。そのために役立つよう  
「物質的な意味の担い手」＝「記憶の担  
が公的儀礼である。

以下、東京という都市も儀礼の中心  
として改造されていつたこと、近代日  
においては「進歩・文明」を体現する  
市＝東京と、奥深い「伝統」の担い手  
としての都市＝京都という「二つの首都  
が存在し、それが相互補完関係にあつ

克斯……など刺激的な論述が続くが、とにかくに議論になつたのは、最後の第5章「象徴天皇」と電子メディア時代のページェント」だ。昭和天皇「Xデー」時期の天皇のページェントについてフジタは「大喪の礼」がテレビ画面にふさわしかたちで構成されていたこと、連続して映像が流れ、「お茶の間」というプラットフォームの聖域に侵入」してきたこと、その意味では、「政教分離」と政府が強弁した「公私の儀式」の使い分けが意味を持たないこと、覗き見趣味的都

う議論など、少なくとも当時、私たちも一部分はそのように見えていた事実を指摘している。メディア環境も大きく変わっているなかで、再びページェントの季節がめぐっている現在の儀礼とメディアによる演出、それが作り出す天皇意識がどのようなものとして考えられるべきかが、私たちの課題である。

次回は四月二四日。テキストは加納実紀代編『女性と天皇制』（思想の科学社）。

こと（さらにはそれは近代天皇制の二重性とも相即的であったこと）、フーコーの議論をベースとして分析される、儀式を通じてつくりだされた「天皇と群衆」における、視線（まなざし）のポリティクス……など刺激的な論述が続くが、とくに議論になつたのは、最後の第5章「象徴天皇」と電子メディア時代のペー

家 知

は喪失し、「もはや国民は君主のまなざしの従順な対象ではない。むしろ、国民自身が天皇・皇室に向かってその容赦ない視線を向けてゆく主体」となつたといふ議論など、少なくとも当時、私たちにも一部分はそのように見えていた事実を指摘している。メディア環境も大きく変

政治を問う・連続講座第4回 明治  
150年式典・キャンペーンと「生前  
退位」

3月27日（火）●おじいわろーク都教委  
申入へ

4月15日（日）●多摩地域メーデースター  
ー会場 戦時二重丸の労働者たち

(070-5567-4777 府中緊急派遣村労組)

●連続学習会・象徴天皇制を考える『天皇家の財布』を読む

14時～／「くば市立春日交流センター」

／主催・戦時下の現在を考える講座

（090-8441-1457 加藤）

4月17日(火) ●大軍拡と基地強化にNO!

アクションへNO 18 (仮) 準備会&学習会

18時30分～／文京シビックセンター5F（地下鉄後楽園駅ほか）／渥美昌純、杉原浩司／呼びかけ・有事立法・治安弾圧を許さない！北部集会実行委員会（03-3961-0212）ほか

4月21日(土) ●戦争に協力しない！させない！練馬アクション第20回記念講演会

15時～／練馬区役所西庁舎（西武池袋線ほか練馬駅）／慎蒼宇／連絡先… 090-5208-5803（池田）

4月22日(日) ●検証：原子力規制委員会の5年半

13時15分開場／万世橋区民会館6F（JRほか秋葉原駅）／新藤宗幸、山崎久隆／主催・福島原発事故緊急会議（090-1705-1297 国富）

●日本国憲法制定過程から排除された沖縄

13時30分開場／東京シティセンター（JR飯田橋駅ほか）／古闘彰／主催… 琉球／沖縄シンポジウム実行委員会（042-637-8872 前田）

4月23日(月)～28日(土) ●辺野古ゲート前連続6日間500人集中行動

8時～16時／辺野古キャンプ・シュウ（042-637-8872 前田）

ワブゲート前／主催・同実行委員会（FAX・0980-55-2245）

4月25日(水) ●辺野古海上座り込みに呼応する官邸前行動

18時30分～／首相官邸前（地下鉄国会議事堂前駅駅）／主催・辺野古への基地建設を許さない実行委員会（090-3910-4140 1坪反戦関東ブロック）

4月27日(金) ●安倍靖国参拝違憲訴訟控訴審第1回口頭弁論

13時30分開廷・東京地方裁判所・高等裁判所100号法廷（地下鉄霞ヶ関駅）

／16時30分～報告集会・文京区民センター2A（地下鉄春日駅ほか）／連絡先・安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京（noyasukuni2013@gmail.com）

●「最悪の人道危機」イエメン内戦のいま

18時30分～／文京シビックセンター4F（地下鉄後楽園駅ほか）／久保田弘信／主催・イエメン内戦を知る講演会実行委員会（090-6185-4407）

4月28日(土)～7月8日(日) ●風間サチコ展 ディスリーピア2680

9時～17時／原爆の岡丸木美術館（東武東上線森林公園駅からタクシー・バス）／連絡先・同館（0493-223266）

4月28～29行動▼28日：明治150年：日本（ヤマト）による沖縄差別を問う

18時～／文京区民センター3A（地下鉄春日駅ほか）／湖南通

4月29日：反「昭和の日」デモ

18時集合／常磐公園（JR神田駅ほか）／主催・天皇「代替わり」と安保・沖縄を考える4.28～29行動

（090-3438-0263）

4月28日(土) ●絵本で伝える戦争と暴力

14時～／アバコチャペル（地下鉄早稲田駅ほか）／クォン・コンドク／主催・アクティビ・ミュージアム「女たちの戦争と和平資料館」（03-3202-4633）

4月29日(日) ●沖縄の元海兵隊員による性暴力殺害から2年 基地・軍隊はいらぬ！4.29集会

18時15分開場／全水道会館（JRほか水道橋駅）／高里鈴代、垣花暁子／主催・同実行委員会（090-3910-4140 1坪反戦関東ブロック）

5月1日(火) ●多摩地域メーテー集会&デモ

17時30分集合／井の頭公園三角広場（井の頭線井の頭公園駅）／主催… 20.18多摩地域メーテー実行委員会（070-5567-4777 府中緊急派遣村労組）

5月3日(木) ●憲法集会2018

11時～／有明防災公園（ゆりかもめ有明駅）／主催・同実行委員会

●やめよう改憲！生かそう平和憲法！

13時～／立川柴崎学習館ホール（JR立川駅南口徒歩10分）／澤藤統一郎／主催・市民のひろば・憲法の会（FAX: 042-536-3212 なみわや）

●明治公園国賠まるわかり集会

18時～／千駄ヶ谷区民会館（JR原宿駅）／主催・明治公園オリンピック追

5月10日(木) ●生前退位、何が問題か

18時～／かながわ県民センター

（JRほか横浜駅）／北野薫／主催… 日本基督教神奈川教区社会委員会

ヤスクニ・天皇制問題小委員会ほか

（090-3909-9657）

5月13日(日) ●辺野古新基地NO・沖縄「日本復帰」46年を問う

18時～／南大塚ホール（JR大塚駅）／主催・一坪反戦関東ブロック（090-3910-4140）

5月20日(日) ●「平成」代替わりの政

策を問う・連続講座第5回 〈新たな人間宣言〉ってなんだ？

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／鶴銅哲、天野恵一・米沢薰／主催・ピープルズ・プラン研究所（03-6424-5748）

5月26日(土) ●原発労働者は団結して要求する！5・26春闘集会

18時～／文京区民センター2A（地下鉄春日駅ほか）／梅田隆亮、池永修、あらかぶ、見口要、斎藤征二、佐々木史朗／主催・被ばく労働を考えるネットワーク（090-6477-9358 中村）

18時～／千駄ヶ谷区民会館（JR原宿駅）／主催・明治公園オリンピック追

い出しを許さない国家賠償訴訟請求訴訟原告団

5月10日(木) ●生前退位、何が問題か

改憲・天皇「元首化」を考える、



18時30分～／かながわ県民センター（JRほか横浜駅）／北野薫／主催… 日本基督教神奈川教区社会委員会

ヤスクニ・天皇制問題小委員会ほか

（090-3909-9657）

18時～／かながわ県民センター

（JRほか横浜駅）／北野薫／主催… 日本基督教神奈川教区社会委員会

ヤスクニ・天皇制問題小委員会ほか

（090-3909-9657）





